



令和4年度 第6号  
常磐野小学校 校長室だより  
令和4年10月18日発行 文責 清川 秀一



## 「行事で何を育むか」



校内を歩いていると金木犀の甘い香りが漂ってきて、秋を感じるこの頃です。体育参観や5年生の宿泊学習「花背山の家」などが終わり、子どもたちは次の「学習発表会」に向けて練習をしています。コロナ禍で様々な学校の取組に制限がかからっていましたが、行事をするという当たり前のことに、改めて意義を感じるようになりました。

では、学校は行事を行うことで、子どもたちにどのような変化を期待しているのでしょうか。体育参観ではどの学年も徒競走や表現運動を行いました。コロナ前のように色別に分かれて得点を競うことはしませんが、学年全員が目標に向かって取り組む姿は、やはり良いものだと実感しています。表現運動を見ていると、一人一人が周りの動きを感じ取っているように見え、心が通じているのではと思ってしまいます。「一体感」という言葉がぴったり当てはまりそうです。見ている保護者の方や先生から称賛された子どもたちの顔には、「自己肯定感」の高まりがあるように見えました。

また、5年生は花背山の家に1泊2日で行つきました。天候にも恵まれ、全プログラムを実施することができました。初めての宿泊学習になるからか、子どもたちのモチベーションは高く、全体行動、グループ行動とも、大変スムーズでした。オリエンテーリングや野外炊事ではグループの仲間で協力し合い、寝具の準備や後片付けなどでも助け合う姿



が多くみられ、子ども同士の距離も近くなつたのではないかでしょうか。活動を通して多くのコミュニケーションが生まれ、自分が相手の役に立ったり、グループのみんなに貢献できたりしたことによる「自己有用感」を子どもたちが感じていたのではないかと考えます。

「自己肯定感」と「自己有用感」と言葉は似ていますが、自己肯定感が「自分の自分に対する評価」に対して、自己有用感は「他者からの自分に対する評価」により高まります。

政府の調査によると、日本人は諸外国と比べて自己肯定感が低い傾向にあるようです。自己肯定感が低くなると、自分のことが好きでなくなり、チャレンジすることが難しくなりますので、できるだけ高くたまつことが望ましいことです。そのためには他者に貢献することにより、「自己有用感」を高めることができます。つまり、自己有用感を高めることで自己肯定感を高めるということです。行事は子どもたちのモチベーションを高めますので、まさに自己肯定感を高める絶好の機会となります。

コロナ禍が続いているが、感染症対策と学校行事の意義の両方を考えながら進めていきたいと思います。